

■「仙台市図書館利用者懇談会」（令和2年度）を実施しました。

日頃、図書館を利用いただいている方々から様々な意見を直接伺い、今後の図書館サービスの向上に活かせるよう、5地区館、2分館で利用者懇談会を実施しました。



(若林図書館での様子)

《実施状況》

館名	実施日時、会場 参加者
市民図書館	令和3年3月6日(土) 10時30分~12時 せんだいメディアテーク スタッフ会議室 個人利用者3名 ※4名出席予定のうち1名欠席 図書館職員4名 (計7名)
泉図書館	令和3年2月18日(木) 14時~15時20分 大研修室 文庫1名、読み聞かせボランティア1名、修理ボランティア1名、 小学校1名、市民センター1名、のびすく泉中央1名、 泉図書館職員4名 (計10名) ※ボランティア懇談会を別途開催

館名	実施日時、会場 参加者
宮城野図書館	令和3年2月25日(木) 15時～16時 視聴覚室 ボランティア団体1名、文化センター1名、市民センター1名、 児童館・のびすく1名、小学校1名、宮城野図書館職員2名(計7名)
若林図書館	令和3年2月18日(木) 14時～15時 視聴覚室 ボランティア団体2名、図書館応援団2名、区文化センター1名、 区中央市民センター2名、児童館1名、若林図書館職員3名、 指定管理者1名(計12名)
太白図書館	令和3年2月18日(木) 14時～15時 文化センター会議室 配架ボランティア1名、読み聞かせボランティア1名、 対面朗読サービスボランティア1名、地域文庫3名 太白図書館職員4名(計10名)
広瀬図書館	令和3年2月5日(金) 13時30分～15時 広瀬市民センター会議室 個人利用者1名、児童館1名、地域包括支援センター1名、 広瀬図書館職員3名、指定管理者1名(計7名) ※ボランティア懇談会を別途開催
榴岡図書館	令和3年2月19日(金) 13時30分～15時 生涯学習支援センター創作室 個人利用者3名、学校関係者1名、生涯学習支援センター1名、仙台駅東ま ちづくり協議会1名、東口ガイドボランティア宮城野さんぽみち1名、 歴史民俗資料館1名、榴岡図書館3名、指定管理者1名(計12名)

図書館から令和2年度の図書館事業の概要と取り組み状況を説明し、出席者全員から意見や要望をいただき、説明や回答を行いました。

たくさんのご意見をいただきましたが、スペースの都合上、一部割愛させていただきました。

《出席者からの主な意見》

【市民図書館】

- ・ 幼い子どもが声を出したり、少々走り回ったりしても許される図書館であってほしい。子どもが安心して来ることができる場所であることが、図書館振興計画（第二次）の「0歳から読書に親しめる読書文化を育む図書館」につながり、中高生になっても本を手にする習慣への入口になるのではないか。
- ・ 市民図書館とせんだいメディアテークの関係や所管範囲が分かりづらい。他の図書館と同様に、音響映像資料についても図書館で一括してほしい。
- ・ 1年前に、緊急事態宣言が発令された際、予告もなく急いで閉鎖したことに驚いた。突然のことに何もできず、利用者としてとても悔しかった。今後は、ホームページ等メディアを活用して広報をしてほしい。
- ・ 2階の雑誌コーナーに、「図書館の雑誌を無断で持ち出すと購入停止にする」との掲示があり、心が痛む。無断持ち出しは残念なことだが、利用者の不利益によって解決しようとするのではなく、窓口にカードを提示して提供するようにしてはどうか。
- ・ レファレンスは、卒業論文で忙しい学生等でなければ、利用できないのではないかと思っていた。「本の道案内」の存在も初めて知り、ここまで調べてくれるのかと分かった。サービスの周知があるともっと利用しやすい。
- ・ 窓口の職員が何か作業に集中しており、すぐに対応してもらえなかったことがある。忙しいのではないかと気になった。

【泉図書館】

- ・ 地域の活動の支援として文庫用書庫の本が借りられるなど、図書館にお世話になっているおかげで文庫活動を続けられている。文庫書庫に入れる本の希望を出す仕組みがあるので、新刊の本や各文庫で買うには難しい金額の本を選ぶことができ、大変助かっている。
- ・ 図書館にはたくさんの親子が来てたくさんの本を利用しているが、3年生以上の子どもたちの姿があまりないように感じる。
- ・ 昔は本を大事に取り扱ったと思うが、最近は乱雑に扱われているような気がする。目立つのは、汚れていたり、波打ちしたりしている本で、これらは修理が難しい。絵本はやぶれが多い。
- ・ ブックトークは大変好評。子どもたちもとても喜んでいて、ますます本に興味を持つことができ、紹介してもらった本を借りたい、泉図書館に行ってみたいという声がたくさんあった。
- ・ 学校で読書啓発の企画を行っているが、毎年同じような内容になっている。先ほど紹介されていた「本の福袋」は学校でもできそうな企画なので取り入れたい。
- ・ 泉区の恵まれた図書館サービス環境を生かし、今後は、市民センターでの図書館を意識した事業づくりや、市民センター機能を図書館にも活用してもらおうなど、区内各地で読書環境を充実させるための取り組みにおいて連携していきたい。
- ・ のびすく泉中央では、図書館から隔月の読み聞かせや絵本の貸出などをしてもらっている。読み聞かせのあとには、初めての絵本をどういう風を選んだらいいか、どんな風に子どもに絵本に触れさせたらいいのかなどについて相談できる時間もあり、保護者から好評だ。

【宮城野図書館】

- ・レファレンスサービスは知られていないと思われるため、もっとアピールしてはどうか。
- ・どのような本を借りるか迷う利用者にとっては、新聞の書評やブックリストで紹介されている本を集めた棚は魅力的と思う。魅力的な棚づくりをしてほしい。
- ・書店で GOTO キャンペーン中止の折に、47 都道府県にちなんだ本を小説も含めて特集していたが、そのような展示も面白いのではないか。
- ・仙台市教育委員会が、読書時間と学力との関係性を調査した結果のリーフレットを作成した。図書館でも読書の効能をアピールし、利用を促進できるとよいのではないか。
- ・のびすくでも、人数制限を設けた上での利用をお願いしているが、予約ですぐに埋まっている状況。子どもと家にいる時間を、本を使って充実させていきたいというニーズがあるのではないか。児童館では蔵書の貸し出しをしていないため、図書館の利用があるのではないか。
- ・子育てに自信をなくした母親が、読み聞かせ講座を受講して自分の子どもに本を読んであげること、自信を取り戻すという話を読んだ。乳幼児健診などで、保護者向けの話をする機会などがあるとよいのではないか。
- ・複合施設の強みを活かした企画を考えられるとよい。
- ・子育てに不安を感じる保護者、コロナ禍で行き場がなく、ストレスを感じる保護者の多さを実感している。
- ・ほっとできる時間と場所を提供できるとよい。

【太白図書館】

- ・自宅で文庫活動をしているが、新型コロナウイルス感染防止のため、中に入って本を選んでいただくのは休止し、LINE などでお薦めの本を紹介し、玄関先で渡すなど、細々と活動している。
- ・自宅で文庫活動をしているが、予約制にする、入室は 2~3 人に限定する、庭先で本を渡すなど、毎月悩みながら試行錯誤して運営している。このような時だからこそ、本を読みたい人はいると思う。
- ・地域に子どもが少なくなっていることが、地域文庫の利用者が減っている一因になっている。子ども達にどのようにすれば利用してもらえるか、考えている。
- ・対面朗読ボランティアとして活動している。新型コロナ対策として朗読時間も 2 時間から 1 時間に短縮したが、利用者の中には図書館まで 1 時間ぐらいかけて来館している人もいたので、早くコロナ禍が終息し、今まで通りのサービスになると良いと思う。利用者からは感謝されており、それが励みになっている。
- ・今後も読み聞かせボランティア養成講座は続けて欲しい。会員の中でも高齢化が進み、辞める人も増えてきている。新しい人に入ってもらうために、環境を整えていきたい。
- ・配架ボランティアとして活動しているが、活動中に興味が沸いた本を、活動終了後に借りたりするなど、楽しくやっている。今後もボランティア活動を含めて、図書館を利用していきたい。
- ・新型コロナウイルス感染が拡大していた昨年 4 月・5 月ごろ、県内では全面的にサービスを停止していた図書館も多かったが、仙台市図書館では予約本の受取りなどだけでも利用できて嬉しかった。
- ・太白図書館の駐車場には割引サービスがないので、負担が大きいと思う。

【若林図書館】

- ・「自粛」という言葉が頭から離れなかった1年間だったが、イベントの参加者を見ると、皆さんが楽しく過ごしている。参加者も自粛疲れをしていたのだろう。
- ・震災10年を機に『語り継ぐ震災の記憶』（若林区中央市民センター、2014.）を増刷した。図書館にも所蔵があるが、被災地の図書館として郷土資料、震災関連資料を守り続けてほしい。
- ・連携事業として恒例だった「仙台七夕に願いを」が開催できず残念だったが、次年度はぜひとも開催したい。
- ・自主事業のジャンルの幅広さは、市民センターで企画する事業の参考にもなる。
- ・文学碑や文化活動団体など、本に関するスポットの冊子を作成したらどうか。
- ・おはなし会の会場が2階に変更になったが、「2階」「視聴覚室」と言われても分からない人がいる。会場が分かるように案内板を設置してほしい。
- ・展示コーナーを楽しみにしている。先日のテーマ「赤い本」は非常に興味深かった。
- ・排架ボランティアをしているが、2時間程度の作業がいい運動になっている。
- ・ある新聞にインターネット時代の図書館という記事があり、出版文化が脆弱化してくるという内容だったが、何らかの対策を考えたほうがよいのではないか。図書館のインターネット時代にむけて、図書館スタッフも対応していけるよう研修等の策を講じるべきだ。
- ・児童館にしながら図書館のイベント等に触れられるのは非常に良い。

【広瀬図書館】

- ・「思い出アーカイブ」の使い方を知らない方も多く、新しい作品を募集しているということになると、ほとんどの方が知らないのではないかと。様々な機会を捉えてPRしていくようにすれば、この地域にも歴史に詳しい人は多いので、様々な角度での投稿作品が増えていくのではないかと。
- ・本離れが叫ばれる中、選書アドバイザー会議に高校生も含めて応募があるというのは素晴らしいと思う。
- ・高校生たちが来てくれると、子どもたちは喜んでお話を聞く。広瀬図書館でその高校生たちへの読み聞かせ指導をされていたことを知り、そうした面でも支えられていたのだなと思った。
- ・健康上の理由で図書館に来られなくなってしまったとしても、電子図書館を使えば在宅で本を読むことができる。仙台市は良い取組みに予算を付けたと思っている。ただ、どういった内容のものなのかは具体的に分からないので、今後の成り行きを見守りたい。
- ・シニアの方にもスマホやタブレット、パソコンなどの新しいものに挑戦しようという機運があるので、電子図書館の導入もデジタルな機器やコンテンツに親しむきっかけになるのではないかと考えた。ぜひ実現してもらいたい。
- ・高齢の方の中には、子どもや若い世代と交流するということを嬉しいと感じる方も多い。図書館はそうしたさまざまな世代が交流できる場所の一つでもあると思う。特に大沢広陵地域は子どもが少なく、学校がなくなったりもする地域なので尚更喜ばれるのではないかと。
- ・11月に開催された「ひろせ寄席」も地元で落語が見られるということで地域の方々がとても喜んでいました。桂竹千代さんの落語はもちろんのこと、館長自ら司会をされ、とても素晴らしかった。

【榴岡図書館】

- ・以前図書館と連携し、まちあるきも実施していたことがある。地域の団体との交流は必要だと思う。どういふかたちでやっていきたいかお互いに聞きながら進めていきたい。コロナ禍で人数制限はあるが、終息したら人数を増やしていきたい。
- ・まちあるきの連携を始めて4～5年になる。毎年いくつかコースを用意した中から選んでもらい、関連する資料を集めてもらった。また新しいコースを考えているので、来年度も連携したい。
- ・榴岡小学校は図書室でも列をなして本を借りるくらい本好きの児童が多い。ブックトークは生の魅力があるので今後も連携してほしい。
- ・図書館は子どもが一人で気軽に行ける貴重な場所。榴岡図書館だけではなく、仙台市図書館全体で子どもにひらいている図書館であってほしい。
- ・児童書のコーナーに「エプロンをしている人に何でも話しかけてね！」の表示をしてはどうか。
- ・榴岡図書館のスタッフは人が変わっても聞きやすい雰囲気なので、とてもありがたい。
- ・専門の方、長く勤めていただける方を養成してほしい。本のプロは書店にもいると思うが、こういう本を探していると伝えれば案内してもらえるようなレファレンス業務に長けた人材を是非養成してほしい。
- ・同じパルシティ内でも生涯学習支援センターの利用人数より、図書館の利用は約2倍ある。また榴岡地区は人口（子ども）が増えていることから、児童書は充実させてほしい。